

経済学と聖書(2)

2020年5月15日(金)

関西学院大学経済学部

春学期チャペル

担当：井口 泰

Wohin soll ich mich wenden
詞: Johann Philipp Neumann

ZUM EINGANG
曲: Franz Schubert
Deutsche Messe, 1827

Mäßig (適度の速さで)

1. なやみのときに たれにぞたよらんうれしきとき
2. 主のいまさずばこの世はむなしのぞみは消えてよるべはあらかじゆくてをしめしみるしこいでいのぞきやすきをあたえん招きのみこえむねにひびく

1. きにたれにつぐべきああ主よ主こそわがすくい
2. えてよるべはあらかじゆくてをしめしみるしこいでいのぞきやすきをあたえん招きのみこえむねにひびく

なれか なのしみにをさちりなくさめたも
主ぞこわがのまきのよみこえむねにひびく

詩篇 46:1, 39:7 【ヨハネ 1:9】 マタイ 11:28

1
なやみのときに たれにぞたよらん、
うれしきときに たれに告ぐべき、
ああ主よ、主こそ わがすくいなれ、
かなしみを去り なくさめたもう。

2
主のいまさずば この世はむなし、
のぞみは消えて よるべはあらし、
行く手をしめし みちびくは主ぞ、
この世に幸を 満たすは主ぞ。

3
されども罪に そみたるわれは
いかでみそばに 近づきうべき。
みゆるしこいて いのるしもべを、
わが主よ、み手に とらえたまえ。

4
主のみことばは さやかに聞こゆ、
「なやめるものよ、きたりていこえ、
うれいをのぞき 安きをあたえん」。
招きのみこえ むねにひびく。

第2回 ペストとプロテスタンティズム (5月15日)

「恐れるな。私があなただを贖ったからだ。私はあなたの名を呼んだ。あなたは私のもの (Ich habe dich bei deinen Namen gerufen. Du bist mein!)。」(イザヤ書43:1-2 新改訳聖書) 讚美歌第二編232 作詞 Philip Neumann 作曲 Franz Schubert

キリスト教が、世界に広がり得た最大の理由は、人間の「弱さ」を「聖化」したからだという言っても、間違っていないと思います。弱いところに、神様が働かれるという信頼が、望みを失った者に新たに前に進む勇気を与えてきたのです。逆に、キリスト教が、強い者や強い力を支持するために利用された時期には、大変に不幸なことが起きています。

2020年5月の現在、世界的な感染症の拡大(パンデミック)が続いています。企業の存続の危機や雇用喪失、それに貧困者の増加が、深刻な規模に達しています。感染防止のための外出制限は、リーマンショック後を超える打撃を与えています。経済対策は、時間との闘いです。

私たち個人は、感染の不安だけでなく、社会的に孤立する不安に襲われていると思います。感染症は、自分が偶然性に支配され、不合理で先を見通せないから恐怖なのです。その背後には、死の脅かしがあります。

その結果、私たちの生命力は衰弱し、恐怖という警報に対し勇気を持つてなくなるのです。それは、死が突然、人を選ばずに襲いかかってくるように見えるからです。

16世紀の宗教改革の時代には、欧州で大きな変化が進行していました。第1に、多数の聖職者も病魔に倒れ、既存の教権や教義が無力化し民衆の信頼を失ったことです。第2に、これと同時に、自治権をもった都市を中心に、保健や公衆衛生に関する行政組織が発達し、都市封鎖や検疫、死体処理などの疫病対策が一定の効果を上げていたのです。第3に、疫病の恐怖のなか、神秘主義の傾向が強まった時代に、神と人との一対一の関係が強く認識されるようになったと思われます。

本日ご一緒に読んでいただいた旧約聖書イザヤ書の下りは、私たちの神との一対一の関係を語ります。だから、この聖書の箇所が、大きな慰めであり、希望であるのです。即ち、私たちは、神様とともに、運命を切り拓くことができると思います。

日本のプロテスタント信仰は北米を經由して伝えられ、宗教改革の時代を経験していませんので、宗教改革者の体験を語り継ぐことは少ないようです。

マルティン・ルターは、息子をペストで失い、狂人のように精神を動転させてしまったと伝えられます。同時に、ドイツ・ウイッテンベルクの家で、ペスト患者を収容して看病していました。ジャン・カルバンは、フランスから、カソリックの迫害を逃れ、スイス・ジュネーブに招かれた、亡命者です。一生の間多くの病気と闘い、超人的な努力を重ね、亡くなったときは、実年齢よりはるかに年をとった老人のようであったと記されています。

人類は、感染症を完全に克服することは、ほとんど不可能です。しかし、壊滅的な打撃を受け入れるばかりではありません。感染症と共存できる、新しい世界を夢見ることがきるかもしれません。私たちは、運命を変えられるのです。それは、神様とともに、新たな創造に関与することであるからに違いありません。